くしまっ子

攻めの姿勢とストロークが武器！

得意のストロークで全国上位を目指す

ひたむきな努力が強さの秘訣

相手の打つコースを瞬時に読み、力強いストロークを放つ有明小学校6年の井上紘くん。7月に開かれたソフトテニスの「第34回全日本小学生選手権」に宮崎県代表として出場し、都道府県対抗で争う団体で堂々3位入賞を果たしました。

井上くんのパートナーは、4年のときからコンビを組む日南市・東郷ジュニアの井戸川惺くん。「攻めて攻めて攻めまくる」という陣形はダブル後衛。攻めからリズムを作り、走り勝つテニスが信条です。

井上くんは、小学3年生からテニスを始め、所属するNPO串間で腕を磨いてきました。持ち味は安定感抜群のストローク。コーチを務める谷口裕信さんも「粘り強さがあるし、サイドを狙って安定したボールを打てるのが強み」と高く評価します。

その安定感のあるストロークを生みだしているのが豊富な練習量。週4回の所属チームでの練習に加え、中学生を相手に週2回の練習を行います。さらに練習がない日は、テニス経験者の母親と一緒に練習を行います。

そのひたむきな努力が結果として表れたのが今回の全国大会。「3位という結果はうれしいけど、全国の上位チームとの実力差も感じた。そういうチームに勝てるようにこれからさらに練習を頑張っていきたい」と井上くん。大舞台での活躍を誓い、日々ボールを追い続けています。

06.井上（いのうえ） 紘（こう）くん

有明小学校6年生。ソフトテニスクラブNPO串間所属。小学4年から3年連続で全国大会に出場。ダブルスのパートナーは日南市・東郷ジュニアの井戸川惺くん。

地域おこし協力隊

活動日記 vol.6

ヤマダイかんしょ企業試食会

長友（ながとも） るみさん

昨年8月に発足した「くしまオリジナルブランド推進協議会」では串間の食を全国に広めるための活動を行っています。その活動の一環として、2002年に県の誘致企業として宮崎アウトソーシングセンターを開設した株式会社ハウコムにてヤマダイかんしょの試食会を実施しました。

同社は、平均年齢が30歳代と若い社員の方々が多いので、トレンドを創り出す若い層の意識調査ができるという期待の一方で、甘藷という伝統的な農産品に対しての反応に不安がありました。

会場では、スティック状にして揚げた甘藷を試食してもらい、アンケートに回答いただきました。結果は・・・好評いただき、「食べたい！」「おいしい！」という言葉が聞こえると、緊張していた私も自然と笑顔になれました。おいしい食べ物は心を豊かにすると改めて感じる瞬間でした。また、今回「ヤマダイかんしょ」「黒瀬ブリ」「宮崎牛」をデザインしたPRポスターができ上がり初お披露目。それを見た社員の方々からは「今後は宮崎牛を食べたい！」と興味を持ってもらいました。

オリジナルブランドという壮大な名前を掲げていますが、地道な活動から一歩一歩進もうとしています。「志あるところに道は開ける」と信じ、これからも活動を続けていきます。

串間のあんな人こんな人
People
ピープル

串間で活躍する人を紹介します
きらめき図鑑
kirameki

市木・松の下笹踊りを次代へ

若者に伝え残したい

市の無形文化財にも指定され、市木の藤地区で古くから伝わる伝統芸能「松の下笹踊り」。少子高齢化が進み、一時は途絶えたものの、地域活性化を図ろうと十数年前に復活し、地元で再び継承が続けられています。

この踊りは約300年前、地区民に災難が多く発生し、災いを鎮めるために幼女による踊りを奉納したことで、災いがなくなったとの言い伝えが起源とされています。これを松の木の下で踊るので、「松の下笹踊り」と言われており、毎年地元の火祭りの日に、市木保育所の園児が披露します。園児の懸命に踊る姿は、祭りに参加する地元の人たちから喜ばれ、定着しています。

その園児たちに踊りを教えているのが、市木の木ヤ藤地区に住む谷洋子さん。農家を営む傍ら、笹踊りの継承に尽力しています。

練習を行う8月は、谷さんが生産しているオクラの収穫期と重なるため、多忙を極めつつも、時間を見つけては指導のために市木保育所を訪れます。「子どもたちと一緒にふれ合うと孫を見るようで楽しいですよ」と谷さん。指導方法も細かく教えることはせず、谷さん自身も見ながら覚えたというように、踊る姿を見せながらそれを真似させ、子どもにもわかりやすい指導を心掛けています。

今年は7月末から約1カ月間、先生たちの協力も得ながら練習を実施。9月3日に開催された火祭りの中で、20数曲ある中から4曲を歌と太鼓に合わせて踊りを披露しました。踊りの最中は、ステージ前方から指示を出しながら、子どもたちを心配そうに見つめる谷さん。踊りが無事に終わるとほっとした表情を見せ、笑顔で子どもたちを迎え入れました。

地域を盛り上げようと始めた指導は今年で11年目。最初に指導した子どもたちは、今年高校1年生になりました。

市木の「松の下笹踊り」と同様に、都井の「臼太鼓踊り」や本城の「棒踊り」など、地域の伝統芸能は大人から子どもへと受け継がれています。谷さんは「伝統を次代に引き継ぐのは大人の使命。近い将来、これまで教えてきた子どもたちに、伝承するという役目をバトンタッチできれば」と期待を込めて話します。

「市木を盛り上げていくためにも、大切な伝統をこれからもなんとかして残していきたい」。その言葉には、途絶えさせないという谷さんの強い思いが込められています。

谷（たに） 洋子（ようこ）さん
（市木地区・木ヤ藤）

生まれも育ちも市木。オクラを栽培し、収穫期の現在は忙しい毎日を送っている。カラオケが生きがいというほど大好き。

先生たちも踊りを覚え指導

松の下笹踊りを踊る市木保育所の園児